

ライブキャプション

JJ1SXA/池

ライブキャプションは動画などの音声を認識してリアルタイムで字幕を自動生成する機能だ、パソコン上で流れる音声は字幕化の対象になる。

ライブキャプションはWindows11のバージョン「22H2」から導入された機能で、バージョン「23H2」から日本語に対応したようだ、折角Windows11マシンを導入したのだから使ってみることにする。

自分のパソコンのバージョンを調べる方法は下記のようにいくつかある、調べたら私のパソコンのバージョンは「23H2」だ。

- 1、「Windows」+「R」キーを押して「名前」欄に「winver」と入力「OK」ボタンを押す。
- 2、「スタート」ボタン右クリック、表示されるメニューから「システム」をクリック。
- 3、「Windows」+Pause/Breakキーを押す。

ライブキャプションの起動はアプリ一覧から選択するか、「Ctrl」+「Windows」+「L」キーを押す、位置やサイズは自由に変更できる、起動した状態で音声を再生すればそれに合わせて字幕が随時生成される。

認識の程度は如何かと試す、精度はまずまずのようだ、NHKのニュース番組では、ほぼ完璧だったが、ユーチューブの動画では、まともに文字起こしができなく変換ミスが多かった、我が家は、J:COMと契約のケーブルテレビだ、そして、パソコンにTVチューナーは搭載していないが、ソニーの「PC TV Plus」導入で、ケーブルテレビの全契約番組の視聴が可能になっている。

認識対象の言語は標準では日本語だが、言語パックを追加することで外国語にも対応するようだが、事前に「字幕言語」の設定で切り替えなければならない。

「字幕言語」の設定は、右上にある設定マークをクリック、「字幕言語」→「言語を追加する」→優先する言語の右にある「言語の追加」をクリックで、「インストールする言語」を選択、「次へ」をクリック、「インストール」をクリックでOK。

私のようなサンデー毎日の身には関係ないが、ビデオ会議のある人達には、ビデオ会議中の発言を画面にリアルタイムで字幕の形式で表示できるのは話の内容の聞き間違いを正せる、素晴らしいことだ。

ライブキャプションで文字起こしたデータは保存できないが、似たような機能のトランスクリプション機能で文字起こしたテキスト、例えば、Microsoft Teamsには、会議等の録音を自動文字起こしする機能があり、文字起こしたデータは「.docx」等のファイルとしてダウンロード・共有することができるようです。

ライブキャプションは、Win11付属の無料アプリですから、そんなところが限度であることは承知して割り切って利用するしかないようです。
(2024年3月記)